

古地図アプリ Maplat、その後の進化

Code for History 大塚恒平

キーワード 古地図, 路線図, MaaS, 有償地図配信, 歴史教育, オープンデータ

2018年度に最優秀賞を含む3冠を頂戴した古地図アプリ **Maplat** のその後の発展をお伝えします。

線を線に変換する機能と路線図などへの応用

古地図等の不正確な地図に描かれた線（道路、河川等）と、現実の線をぴったり変換できる機能を開発しました。この機能は路線図上での位置決めにも応用が可能なため、豊橋市のバスロケーションシステム「のってみりん」で採用されました。



線を線に変換する WMTS タイル生成

線を線に変換する座標変換は **Maplat** としての用途だけではなく既存 GIS でも有用なため、座標変換結果を元にした古地図画像変換と WMTS タイル生成機能を実現しました。今後、需要なども確認しつつ GeoTIFF 等の生成にも対応を検討します。下図は既存技術との変換結果比較です。

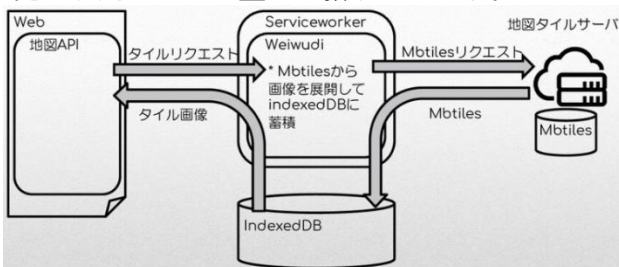


既存技術 (GDAL)

新技術

地図タイルのダウンロード販売できる技術

Web をオフラインで用いるための仕様、PWA (Progressive Web App) に Web タイル地図を対応させるためのキャッシュフレームワークを開発し、**Maplat** とは独立して利用できる別ライブラリ (Weiwudi) として提供。Mbtiles も利用可能にする事によって、商用地図のダウンロード販売に利用できる基盤を目指す予定です。



Mbtiles による地図一括ダウンロード

その他の活用事例とこれからの開発予定

オープンデータを活用して歴史教育や文化財を紹介する基盤として、東成区の「ひがしなり街歩きアプリ」、ぐんま史料ネットの「ぷらっと玉村」などに採用されました。



今後は、迅速測図や旧版地形図のような一葉で完結しない連続した地図について、境界面での非連続性を発生させない技術について開発を進める予定です。